

情 報

第26回：平成17年 9 月 6 日

「GCナソヘキサグラフの筋電計の 使用方法について」

株式会社 ジーシー営業部 矯正・ME機器課
森田 泰成

ナソヘキサグラフは顎の動きの計測により「簡便に・正確に・より多くの情報提供」をコンセプトに開発された顎運動計測器です。「正確な診断」を行うためには顎の動きのみの計測では不十分な場合もあります。そこで、顎の動きと同時に、音と筋肉の動きも同時に計測できる検査装置として開発されました。

今回はナソヘキサグラフに接続した筋電計の使用方法をご説明すると同時に、軌跡の見方、波形の見方をご説明します。

第27回：平成17年11月24日

総義歯症例報告—義歯性線維腫—

歯科技工士学科専攻科 生体技工専攻 6 回生
池田 俊之

患者は80歳代女性で、主訴は義歯が合わなくなった為、義歯の新製を希望されての来院だった。口腔内所見では、右側臼歯部の歯槽舌側溝付近に義歯性線維腫があり、また、咬合位も不安定だった為、治療用義歯を用いて義歯性線維腫の舌側への圧排と咬合位の安定を図った。

今回の義歯製作ではチェアサイドで様々な意見を聞くことによって、患者さんを身近に感じ、使う人の立場になり製作しなければならないと強く思った。患者が、義歯を使用するにあたっての不満や意見を聞いたことが何よりも貴重な体験になったと思う。

第28回：平成17年11月24日

ポリカーボネート樹脂による 部分床義歯症例報告

歯科技工士学科専攻科 生体技工専攻 7 回生
藤田 恭子

症例は生体技工専攻 4 回生の歯科技工士が担当した患者さんを引き継いだ。87歳女性で、主訴は痛くて噛めない、人工歯の咬耗、着色が気になることから、転覆しない噛める義歯を希望していた。

新義歯は、患者の顎運動に調和し円滑な咀嚼機能を営むことができていたため、旧義歯同様レイニング人工歯

と義歯床用強化ポリカーボネート樹脂で製作した。

患者担当制を通して、咬合支持域を失った状態の顎位の不安定さと回復の難しさを学んだ。また、歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士が患者とコミュニケーションを図ることの大切さを実感した。

第29回：平成17年11月30日

歯科技工士学科 インプラント教育内容の紹介

歯科技工士学科
丸山 満

本学は、開学当初から「特殊歯科技工演習Ⅰ」で、学科2年生を対象にインプラントの概論について開講されている。さらに、平成14年度に杉井臨床教授が担当されてから、学科に加え、生体技工専攻もインプラントシステムの実際について講義が開始された。現在、それぞれの講義は、straumann Dental implant Systemをもとに進められ、上部構造の製作に欠かせない「冶金」も詳しく解説されている。今回は、講義サポートをしている立場から、実際の配付資料や臨床例の紹介に加え、実習で製作した上部構造も提示して教育内容を紹介した。